

2020年度QCサークル本部方針

2019年8月2日

QCサークル本部

QCサークル活動（小集団改善活動）により、
日本の“ものづくり・サービス”のダントツ化を図ろう！

【基本方針】

1. QCサークルのリーダー・メンバーは、チームワークで仕事の達成感と自己成長を図る！（人間力）
2. リーダーは、より確かな目標に挑戦するリーダーシップの育成を図る！（仕事力）
3. 管理者・監督者は、QCサークル活動支援を通じて、管理・監督者のマネジメント能力の向上を図る！（職場力）
4. 推進事務局は、全社一丸となったスピード感あふれる改善活動の活性化を図る！～QCサークル活動（小集団改善活動）優良企業・事業所表彰～（組織力）
5. 経営者は、経営に資する全社TQM推進の一環としてのQCサークル活動(小集団改善活動)の強化を図る！（経営力）

【2020年度重点実施方針】

顧客の価値基準が「モノ」から「コト」へ変化する中、無形の価値提供に関する業務、即ち従来JHS(含む医療・福祉)部門と定義していた部門に於ける改善活動に対するQCサークル(小集団改善活動)が有効である事の周知徹底を強化する。

【本部・支部・地区の基本となる活動】

1. 経営者・管理者に対するフォーラム・コミュニティの開催など、QCサークル活動活性化への継続的支援活動。
2. QCサークル活動発表者への動機付け（QCサークル本部幹事長賞）と参加者動員のための企画・運営の工夫。
3. 支部長会社・地区長会社・幹事会社の負担軽減のための運営の効率化や分担の工夫・任期の見直し。
4. 地域の経済を担う中堅企業や生活を支える医療・福祉団体などと密着した活動。
5. 小規模企業へのQCサークル活動（小集団改善活動）の普及・拡大・推進活動。
6. 行政、学界や経済団体との連携による、地域の特色を生かした運営。

前記方針の達成に向けた、本部・支部・地区における具体的な取り組み（例）

1. 地域の行政や経営者協会等と連携をとりながら、選抜大会や経営者フォーラムを開催し、この活動が経営成果につながることへの理解活動を展開する。
2. 大会において、従来の改善事例の発表に加え、管理者・監督者を巻き込んだ推進事例の発表を行い、活動の活性化につなげる。なお、発表は問題解決の内容を忠実に評価する。
3. 推進の悩みを相談できる場を設けるとともに、各企業・組織が実施している良い推進のやり方を事例集にまとめ、相互研鑽に役立てる。
4. 個々の企業・組織のニーズに応じた出前研修を実施し、活動を実践する企業・組織の増加、研修会や発表会への参加者増につなげる。
5. 個別指導、エリア（ブロック）幹事会社制度などの具体的な仕掛けを活用し、地域の経済を支えるものづくり中堅企業、ならびに福祉・医療・教育などの社会基盤を成す分野への普及・拡大をはかり、活動の裾野を広げる。
6. QCサークル本部主体で実施した「小規模企業へのQCサークル活動（小集団改善活動）の導入・支援活動」を踏まえてモデル化した資料（導入・支援手順書）を活用し、QCサークル本部の支援・協力のもと、支部・地区の指導者・支援者ならびに現在取り組んでいる活動の更なる強化を図る。
7. 従来の幹事制度にこだわることなく、参加企業間で負荷を分担し、支部長会社・地区長会社、幹事会社への負担軽減の工夫を図り、運営の合理化を推進する。
8. 開発・営業・サービス・管理などの間接部門への普及・拡大のための具体的なツール、リーダー・メンバーの参加意欲を支援する具体的なツールを開発・活用する。
9. 発表大会や選抜大会に伴う工場見学会／講演会などを、参加者に、より魅力ある企画・工夫を図る。
10. 自己啓発、相互研鑽と情報共有だけでなく、多くの企業・組織に必要とされる情報誌として構成し、大会や研修会など、『QCサークル』誌の活用を図る。2サークルで1冊購読して、現場力（職場力）の更なる向上を図る。

【2020年度重点取り組み事項】

個別改善事例発表大会の開催、運営事例選抜大会の基準の見直しなど、従来のスタイルにこだわらない、時代が求める大会を企画する。